

平成27年度第2回山内図書館利用者フォーラム 会議録

1. 日 時 平成28年2月8日(月) 14:00～15:30
2. 場 所 山内図書館集会室
3. 出席者 利用者フォーラムメンバー
千葉委員(代表)、貞廣委員(副代表)、横溝委員、池谷委員(欠席)、
西川委員(欠席)、松下委員、石坂委員(欠席)、中川委員(欠席)、徳榘委員、
宮澤委員、高樋委員、今中委員
事務局
荻野課長(有隣堂本部)
小嶋部長・村田係長(三洋装備)
古川館長、渡邊副館長、味元(山内図書館)
4. 案 件
 - (1) 平成26年度の運営評価
 - (2) 平成27年度の事業、取り組み
 - (3) 山内図書館の運営についての自由討議
 - (4) 平成28年度の利用者フォーラム委員について
5. 概 要
 - (1) 平成26年度の運営評価(古川館長)

第三者機関の横浜市山内図書館指定管理者選定評価委員会による、管理運営評価について報告。「横浜市山内図書館 指定管理者 平成26年度管理業務評価報告書」を参照しながら、7つの評価項目において、A～Eの5段階評価で、A評価が4、B評価が3の判定があり、総合評価としてはB。おおむね目標とした、または期待した水準を上回る達成状況にあるという評価がなされたことを説明。
 - (2) 平成27年度の事業、取り組み(渡邊副館長)

山内図書館が平成27年度に実施した事業について、①講座、②展示、③情報発信、④学校連携、⑤その他の事業について、報告。

①講座 例年行っている著名人による講演会は、今回は作家で国文学者の林望氏を迎え、「リンボウ先生と愉しむ平家物語」と題し、実施。また、本年度は読書推進活動の一環として、ビブリオバトルの普及に努め、山内図書館および青葉区内の地区センターで、ワークショップ型のビブリオバトルの講座を行う。

②展示

本年度新しく行ったものとして、横浜をホームタウンとする横浜F・マリノスの展示や「壊れた本がよみがえるまで」と題して、本の修理過程を紹介する展示などを行う。また、月1回、児童コーナーの一隅で、修理ボランティアグループ「リペアー期の会」に公開で本の修理を行ってもらい、利用者に本を大切に扱ってもらえるよう働きかけている。

③情報発信

引き続き、ホームページやブログ、ツイッター、メルマガで図書館及び読書に関する情報発信を行う

④学校連携

例年通り、児童・生徒向け支援サービス、学校司書・学校ボランティアなどの支援、教職員貸出のサービスを行う。

⑤その他の事業

利用者フォーラムの意見を受けて開始した託児サービスは利用が伸び、申込人数をオーバーし、お断りする会も出ている。テレビや新聞でも取り組みが紹介された。

有料宅配サービスは利用が低下しており、広報の必要を再考している。また、正面玄関脇にウッドデッキを新設。読書スペースや待ち合わせ場所、飲食スペースとして利用されている。今後はおはなし会などでも利用していきたいと考えている。来年度は座席に予約システムの導入、及び座席数の増加を検討している。

(3) 山内図書館の運営についての自由討議

山内図書館について各委員からご意見をいただく。

- ・あおば紙芝居一座は昨年から今年にかけ新作を2作作製した。レパートリーは12～13ある。現在、3作は山内図書館内のipadで見られるが、その数を増やしてはどうだろうか。

- ・例年、山内図書館で郷土芸能「牛込の獅子舞」の講座および、見学ツアーを行っているが、新石川の驚神社の祭礼には各谷戸に伝わる神事が奉納される。それらも紹介してはどうだろうか。

- ・文化財の継承に務め、区内に残る文化財の情報を発信していくことも図書館の重要な責務。若い人にも親しみをもってもらえるような工夫を一考して欲しい。

・青葉区内に残る文化財のツアーを行ってはどうか。AR技術を使ってポイントで資料をチェックできるようにしたり、講師が同行して解説したりも良いのでは。

・昭和30年代の祭の様子を記録したビデオを所有している（DVD化済。上映時間：約1時間30分）。開発以前の農村風景がみられる。上演会を行ってもよい。また、参加者に地域資料があれば持って来てくださと呼びかけてはどうか。

・郷土の情報を子どもたちに伝えていく事が大切である。子どもたちが親しめる講座、展示を企画してもらいたい。

・学校がつくっている記念誌は郷土資料として活用できる。町の歴史が記録されている。⇒（図）学校の記念誌をご寄贈いただき、地域資料として活用させていただいている。地域の記録を再発見するためにも、図書館からも働きかけ、さらに寄贈を呼びかけていきたいと思っている。

・図書館で昔の農機具の展示は可能か。できれば、実際、道具に触れて、農作業を体験してもらいたい。

・学校では、最近町の調べ学習を行っている。可能ならば、図書館から同じ場所の定点観測をお願いし、記録してもらえれば価値ある郷土資料となるのではないだろうか。

・図書館で読書感想文教室をやって欲しい。夏休みなどに読書感想文ビブリオバトルというのも面白いかもしれない。

・（図）現在、図書館ではビブリオバトルの普及に努めている。ワークショップ型で講座では、経験すると面白さに目ざめる人が多い。ゆくゆくは区内の各地区センターで予選会を開き、山内図書館でチャンピオン大会を開催したい。

・（図）子ども向けの郷土資料が少ない。また、地域によっては資料がなく、夏休みの宿題などで、子どもが地域のことを調べにきたときに十分にこたえられない。これをどうしていくかが図書館の課題となっている。

・『うしごめのししまい』（冊子）のように子ども向け資料をつくっていただけるとありがたいが、学校の記念誌の中から地域の歴史を扱っている部分をまとめてく

ださるだけでも助かる。

- ・山内図書館で所蔵しているデータ資料を年代別に整理してもらえるとうれしい。

- ・アーカイブは増えているのか。⇒(図)年に数件寄贈があり少しずつ増えている。

- ・もっと大々的にキャンペーンをはるなどして、積極的に地域資料(主に写真類)を収集してもよいのではないか。代が代わった時、古い写真が処分されてしまう。当時の様子が記録された写真は貴重であるが、一般の人は関心が少ない。

- ・「わが町の今昔の写真展」を企画してはどうだろうか。

- ・以前、川崎の宮前区役所で、昔の町の写真を壁に写し、スライドショーで流していた。こういう展示方法もよいかもかもしれない。

- ・修理ボランティアグループ「リペアー期の会」は月に1回火曜日の午後、公開修理を行っているが、来館者が少ない。多くの人に活動を知ってもらえるよう春休み・夏休みなどの期間にも行えたらと思う。

- ・最近修理本が増えている。メンバーの空き時間に修理を行えたら、もっと多くの本を修理できる。そういうスペースがあればいいと思う。

- ・館内にコンシェルジュ的役割を持つ人を配置してどうか。バギーで子どもを連れて来館したお母さんがトイレに行きたいが、子どもをおいては行けず、困っている姿を見かけたことがある。また、長時間滞在している人も多い。そういった方の読書相談にも乗れるのではないか。

- ・山内図書館が地域資料収集のためにキャンペーンを行うときは、有隣堂たまプラーザテラス店でも、店内にポスターを張るなど、協力できることを模索したい。

(4) 平成28年度の利用者フォーラム委員について(渡邊副館長)

次年度も引き続き委員の継続を依頼、承諾を得る。再来年の40周年に向けて、メンバーの皆様と一緒に準備をしていきたい。

配付資料:会議次第

横浜市山内図書館 指定管理者 平成26年度管理業務評価報告書